1♀が同師範學校博物館にシナノトタテグモの和名のもとに保存されてゐるとの事である。爾來十數年蜘蛛研究家が文字通り實の如く探しもとめた此の珍品が咎として其の姿をあらはさなかつたのであつた。これが今回天覽山に於て偶然にも日本に於ける第2頭目の標本として、而も意義ある東亞蜘蛛學會主催第1回蜘蛛採集會に於て、更に新產地として、發見し得たのであるから、予が口を大にして宣傳し、又特筆大書する所以もお解りになられた事と思ふ。尙本種は採集例が少ないばかりでなく、他のトタテグモと違つて中窩が縦向と云ふ極めて變つた種類で、分類上からも特に珍種とされるもので、外國でも此の仲間是非常に少ないものである。最近岸田久吉氏は此の蜘蛛を基本としてカネコトタテグモ科 Fam. ACATTYMIDAE をつくられた。中窩縦向が他のトタテグモと分つ主要なる特徴である。

(昭和11年8月5日稿)

Fujita, M. — *Caddo medama* Kishida found
in Prefecture Fukui.

メダマザトウムシ福井縣に産す

藤 田 衛

福井縣坂井郡鶴村

(昭和11年10月5日受領)

筆者本年8月上旬福井縣大野郡奥地にて數種のザトウムシを採集し得たり。過日岸田先生に御査定を御依頼した處、超珍品とも云ふべきメダマザトウムシ

Caddo medama Kishida ありたり。只今の處福井縣産瞽蛛の王者として茲に特記したり。

本種は福井縣大野郡和田山の和田池附近のブナの原始林落葉上に於て♀1頭採集せり。本ザトウムシの特異點は眼丘が頭胸部の背甲全面を占めて居るもので、和名も眼丘の形にちなんで岸田先生が命名なされしものと考へらる。本邦に於て採集せる記録も甚だ少なく採集數も今回の1頭を加へて僅かに7頭で本種を観た者さへも岸田先生と丹羽彌氏の二人のみであるもの岸田先生のお話である。最初の發見地は丹後舞鶴附近で岸田先生の採集にかかるものなり。御多忙中御査定を賜はりたる岸田先生並に植村利夫氏に謹んで深謝の意を表するものである。尙其他の採集せしザトウムシを掲げて置く。

Fam. **Epedanidae** タンゴムシ科

Pseudobiantes japonicus Hirst タンゴムシ

Fam. **Phalangiidae** ザトウムシ科

Liobunum curipalpi Roewer ユミヒゲザトウムシ

Liobunum luteum Kishida モエギマメザトウムシ

Nelima valida Kishida コハザトウムシ

Nelima globulifer Kishida ムカゴザトウムシ

Gagrella japonica Roewar ヒトハリザトウムシ

Melanopa tibialis Kishida メスナガザトウムシ

Siva modesta Kishida シハザトウムシ

Bicnia delicata Kishida ヒメザトウムシ

Systemocentrus japonica Hirst ゴホンヤリザトウムシ

(昭和11年10月5日認)

前 號 口 繪 訂 正

第三號口繪上段右の寫眞の説明をフノシグモの卵囊としておきましたが、これは編輯者の間違いで、種名不詳のものだとの事でしたので、こゝに訂正しておきます。

(植村記)